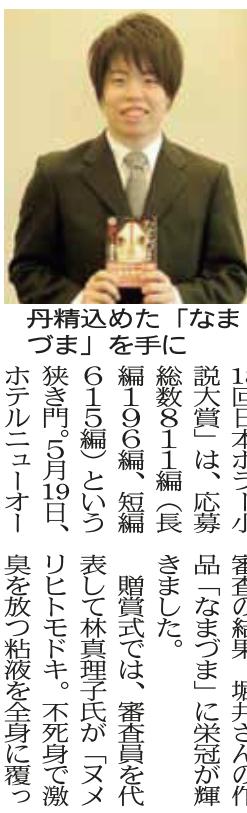


日本ホラー小説大賞で「長編賞」を受賞！

本学人間学部心理学科2009年3月卒業の堀井拓馬さんが、「第18回日本ホラー小説大賞」（主催＝株式会社角川書店）で「長編賞」を受賞した。月25日に東京会館で行われた平成23年度「角川三賞」贈賞式に臨み、関係者とマスクコミが満席状態の会場で、喜びの言葉を述べました。



「角川三賞」とは、「山田 説大賞」のことを指し、本 風太郎賞」「横溝正史ミス 学OBの堀井拓馬さんが テリ大賞」「日本ホラー小 「長編賞」を受賞した。「第 18回日本ホラー小 説大賞」は、応募 「なまづま」に発表された手 編196編、短編 615編)といふ 丹精込めて、「なまづま」を電車の中で広げてPRする友人のエピソードを披露して会場を沸かせる堀井さん

「読み終えた『なまづま』を電車の中で広げてPRする友人のエピソードを披露して会場を沸かせる堀井さん

上伸一郎氏より賞状と目録

贈呈を受けた堀井さんは、「第18回日本ホラー小説大賞」を受賞した。林真理子氏による厳正なる審査の結果、堀井さんの作品「なまづま」に栄冠が輝きました。

贈賞式では、審査員を代表して林真理子氏が「ヌメリヒトモドキ。不死身で激臭を放つ粘液を全身に覆つた……この表現だけでも、何と荒唐無稽だと思つかもしれませんが、堀井さんは文章力で最後まで読ませてしまう。これは凄いことだと思います」と講評。「この受賞によって、文庫本という素晴らしい名刺を手に入れましたので『自分は作家なんだ!』という強い気持ちで、この世界に飛び込んでください」と激励しました。

「なまづま」が、一冊の本になるために尽力してください。また全ての方々に心から感謝申します」と挨拶。

星新一氏の短編から着想を得て、「死なない生物が増えいく怖さ」を著した堀井さん。文中でのリアルな研究シーンには、自身が文京学院の誇りとして、これからも愛され続けることでしょう。

文京学院で学んだ4年間が凝縮されているそうです。

「なまづま」は、10月25日に角川書店より既に発行され、現在、次回作も準備中のこと。作家として歩み始めた堀井拓馬さんは、文京学院の誇りとして、これからも愛され続けることでしょう。

